

事務事業評価表 平成23年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実
 施策 社会保障の充実
 基本事業 生活困窮者の所得保障

事業名 **年末見舞金支給事業**

[0226]

部名	健康福祉部	事業開始年度	昭和51年度	実施計画事業認定	非対象
課名	保護課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>生活困窮世帯 生活保護を受けない、生活保護世帯と同水準(生活保護法第8条の年収基準以下の所得水準)の者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>防寒対策等、経費が高む冬期生活を支援する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>世帯構成員に応じた額と世帯あたりの灯油相当額(200リットル購入)を現金で支給する。 社会福祉協議会で実施している歳末たすけあい事業と共同事業として行っている。 民生委員に対し対象世帯調査を依頼している。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	生活困窮世帯数(把握困難)	世帯				
対象指標2						
活動指標1	支給金額	千円	7,368	7,838	10,644	13,020
活動指標2	申請審査件数	件			514	624
成果指標1	支給人数	人	761	886	1,079	1,187
成果指標2	支給世帯数	世帯	356	419	514	624
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	7,373	7,844	10,651	13,029
正職員人件費(B)		千円	836	830	806	815
総事業費(A) + (B)		千円	8,209	8,674	11,457	13,844

費用内訳	
22年度	需用費 7千円、扶助費 10,644千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	原油価格の高騰は、現在一段落しているが、福祉灯油の加算分については、今後も灯油単価の推移を見守る必要がある。
--------	--	-------------	--

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

同時支給の社会福祉協議会で実施している歳末たすけあい義援金をあわせても小額であることから、これによって直接的には自立意欲を継続させることはできないが、収入の一部を補うことにより、間接的な意義はある。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

「見舞金」ではあるが、生保基準以下で生活している者には「生活費」の一部になっている。しかし、成果の把握が困難であり、社会保障の充実としての貢献度はふつうである。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

生保基準以下で生活している者には最低生活の保障に資するものとなっている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

支給金額を上げることで成果が向上する余地はあるが、財政的な理由で大きな増額は見込めない状況にある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

(4)に同じ。